

地域リハOT 便り vol.22

令和 7 年

12 月

地域リハビリテーション部では、地域に貢献に向け、行政や各種団体からの依頼（講師や委員など）に対応できるよう、各市町に担当部員を配置し、連絡、調整を行っています。

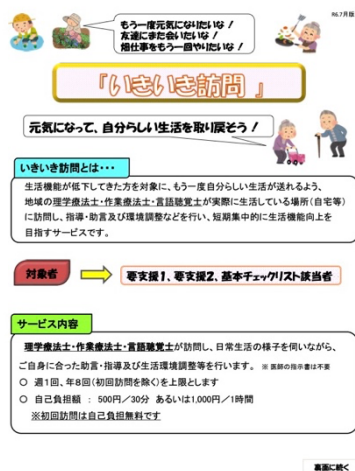
地域リハOT便りを通じて、地域で活躍する各市町の作業療法士の取り組みを紹介します。

今回は、桑名市での取り組みについて、紹介します。

桑名市での取り組み（地域リハ部・桑名市担当：竹河誠）

今回は、桑名市の訪問型サービス C「いきいき訪問」での取り組みについて、紹介します。

いきいき訪問とは桑名市の総合事業における訪問型サービス C で、要支援 1・2 および基本チェックリスト該当者を対象に、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が自宅へ訪問し、短期集中的に生活機能向上を目指すサービスです。週 1 回・年 8 回を上限とし、医師の指示書は不要。初回訪問は自己負担無料で利用できます。



このサービスの特徴的な活用法として、初回無料の仕組みを活かしたケアマネへのアセスメント同行支援があります。ケアマネが新規利用者のケアプラン作成にあたり、「この方にどんな福祉用具が必要か」「住宅改修はどこに手すりをつけるべきか」「どの介護サービスが適切か」と判断に迷う場面は少なくありません。そこで作業療法士が同行し、生活状況・家屋環境・身体機能を総合的に評価することで、自立支援の視点に基づいた具体的な提案が可能となります。

作業療法士は「できる ADL」と「している ADL」の差を見極め、過剰な福祉用具導入や過介護を防ぎつつ、本当に必要な支援を見立てることを得意としています。ケアマネの視点だけでは捉えきれない部分を補い、介護保険資源の適正な活用を支援できる点が大きなメリットです。

例えば事例をあげてみますと、80 代女性。屋内伝い歩きで転倒リスクあり。ADL は自力で行えているものの動作不安定性はあり、住宅改修・福祉用具は未導入の状態でした。ケアマネからは「安全な ADL 実施のためのどんな福祉用具があるか？またその選定および導入の相談に乗ってほしい」、「介護保険サービスの利用についての方針の相談に乗ってほしい」との依頼でした。

ケアマネに同行して自宅を訪問し作業療法士が生活機能チェックシートを用いて評価を実施。その結果、上り框の段差解消、廊下と浴室の手すり、浴槽台の導入、それら導入したものの正しい利用方法の指導を提案しました。さらに歩行能力の改善可能性が見込まれたため、短期集中型通所型サービス C「くらしいきいき教室」のお試し利用へと繋ぎ、機能向上に取り組まれました。これらの介入により ADL 実施への不安がなくなり 6 ヶ月で介護保険サービス利用から卒業することができました。訪問型サービス C は「短期集中リハビリ」としてだけでなく、ケアマネと二人三脚で行うアセスメント支援ツールとしても有効です。地域の作業療法士として、ぜひ皆さんの市町村でも導入への働きかけや活用をご検討ください。